

神奈川大学図書館 正面玄関

## CONTENTS

- 新図書館長からのメッセージ ..... 2頁
- 横浜図書館誌上展示：  
さようなら横浜図書館 40年の感謝を込めて！  
最後だから全部見せます！図書館所蔵貴重資料のすべて ..... 4頁
- 図書館の所蔵資料紹介  
－『四十二行聖書』（ファクシミリ版）－ ..... 7頁
- 図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記 ..... 8頁

### コロナ禍と図書館の役割

神奈川大学図書館長 安達 和志



本年4月に新たに図書館長に就任して間もなく、4月7日には新型コロナウイルス感染症の急拡大をうけて国の緊急事態宣言が発出されました。翌日から大学構内の立入禁止措置がとられたことにもない、図書館も閉館を余儀なくされる事態となりました。その後、5月11日に前学期授業が全てオンラインで開始されたのに合わせて、図書館でも学生向け利用サービスとして、同日から図書の貸出配送とメールによるレファレンス相談、そして5月25日から文献複写配送を始めました。後学期授業が10月1日開始となった際には、学部4年生と大学院生のうち卒論・学位論文のため入館が必要な学生を対象に、利用時間帯と人数を制限して事前予約制で図書館の利用を再開し、さらに11月上旬からゼミナール・演習科目などで対面式授業が一部再開されたのに合わせて、この制限付きの図書館利用を11月4日から学部生・大学院生全員に拡大することとなりました。依然として学外者の利用はできない状況ですが、漸進的に図書館の機能を回復させてきているところです。

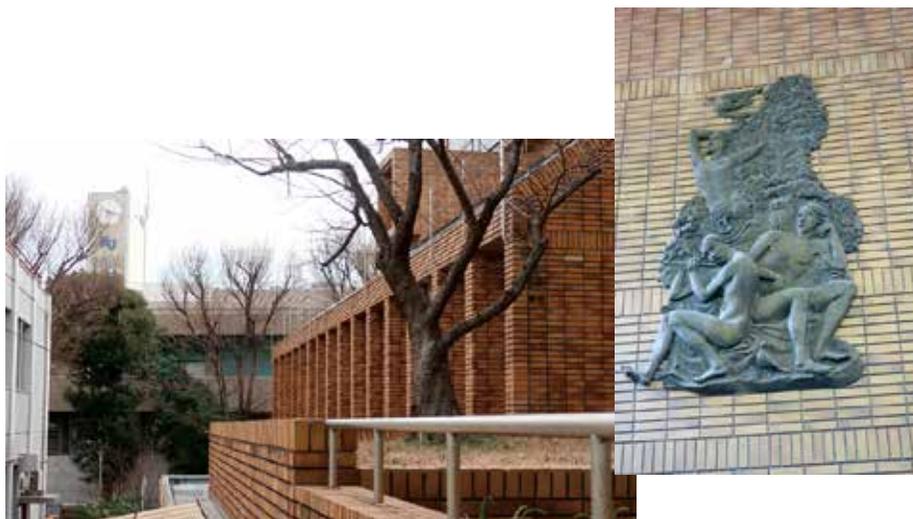
このような極めて変則的な図書館運営の中で、大学生活において、図書館に入館し、文献・資料を探したり、書架から書物を直接手に取って選んだり、静寂な環境の中で閲読するという経験が、何ものにも代え難い学習・研究の基本条件であることを改めて強く実感した次第です。それだけに、いわゆる“三密”（密閉・密集・密接）回避のためとはいえ、この間、大学図書館としての役割を十分果たせていないことを大変申し訳なく思います。とりわけ新たに入学された1年生の皆さんの期待に応えられていないことについては、まことに遺憾と申すほかありません。このうえは、そのような基本条件ができるだけ早く整うよう努めるとともに、この災いを転じて、図書館における学術情報資料の電子化やWebサービスの一層の拡充なども着実に進めていければと考えております。

さて、横浜キャンパスの図書館は、40年ぶりの大改修工事のため来年1月末に閉館され、3号館内にできる仮設図書館で約1年間にわたって運営されることとなります（2022年4月にリニューアル・オープン予定）。また、みなとみらいキャンパスが2021年4月に開設されるのにもなって、同キャンパス内に新たにみなとみらい図書館が開館します。同図書館は、上層各階それぞれにラーニング・コモ

ンズ施設を配置するという新しい構想に基づく設計で、横浜キャンパス図書館と一体的に運用されることになっています。平塚図書館を含めて、移行期間となるここ1、2年の間、教職員、学生その他関係の皆さまにはご不便をおかけすることがあるかもしれませんが、何とぞご理解を賜りたく存じます。

学問の府といわれる大学が豊かな知的空間として保たれることは、そこに集う人々の「学問の自由」のために重要な意義があります。そして、それを支える大学図書館は、教職員、学生、さらには地域の住民の方々のための総合学術情報センターとしての役割をできる限り発揮していくことが求められています。本学図書館がこの使命を果たしていくために、私自身もいくらかでも貢献することができれば幸いと考える次第です。

このコロナ禍で長く続く自粛生活のため、世間では読書をする人が増えたそうですが、読書好きの人が増えること自体は大いに喜ばしいことだと思います。平時であれば、この冊子の冒頭で、“知的体験ゾーンとしての図書館の魅力”について（私自身の細やかな経験を交えて）お話するのがよいのではとの思いもありますが、そのようなことを皆さまとゆっくり語り合える時期が1日も早く到来することを心から願って、新館長としてのご挨拶とさせていただきます。



※安達図書館長は2020年4月1日に図書館長に就任されました。従来、図書館長が新たに就任された際には図書館だより7月号でご挨拶をいただいておりますが、今年は7月号の発行を見合わせたため、12月号の掲載になりました。また、平塚図書館長については、引き続き金谷良夫先生にご就任いただきました。

さようなら横浜図書館 40年の感謝を込めて！

最後だから全部見せます！

## 図書館所蔵貴重資料のすべて

すでに周知のとおり、横浜図書館は来年より閉館し約一年間の改修工事を行います。それに伴い、2020年中に数回に分け、展示「最後だから全部見せます！図書館所蔵貴重資料のすべて」を行う予定でしたが、第一回目「文学編」を開催した後、新型コロナウイルス対応により図書館も休館となり、その後の展示が中止となりました。今回は、その展示で紹介するはずだった貴重資料を誌面上でお見せいたします。



### H. グロティウス『戦争と平和の法』1646年

著者フーゴー・グロティウス（1583-1645）はオランダの法学者。デルフトの名家に生まれた神童で、14歳で大学を卒業し16歳から弁護士として活動、その後法務官、行政長官の職にも就いた。1619年、政治闘争に巻き込まれ終身刑を下されて幽閉されるが、脱出しフランスに亡命、国際法学上最も重要な著作と言われる『戦争と平和の法』を執筆し1625年に出版した。本書はオランダ、フランス、ドイツ、日本など様々な言語の訳が出版され、グロティウスは「国際法の父」「近代自然法学の父」などと称されている。本図書館の所蔵は1646年のアムステルダム版で、グロティウス自ら訂正、注釈をした最後の版で、この版による翻訳が多く出版されている。

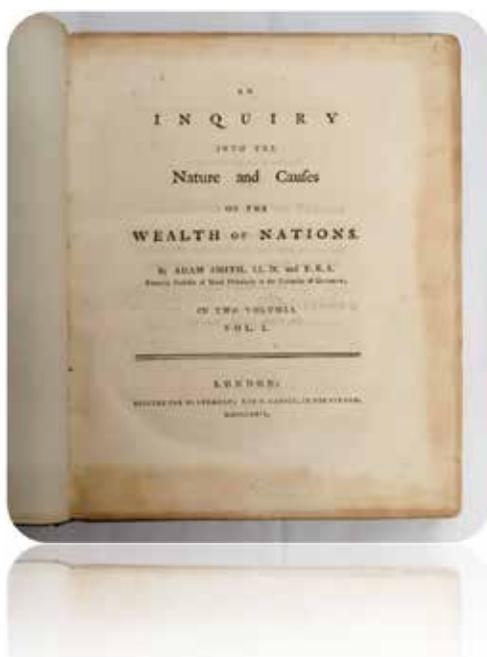
請求記号：A329.01-6

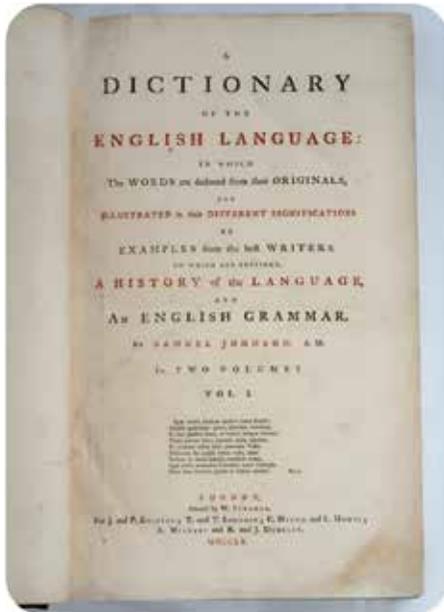
### アダム・スミス『国富論』1776年

著者アダム・スミス（1723-1790）はスコットランドで生まれた。14歳でグラスゴー大学、17歳でオックスフォード大に入学し、28歳で母校グラスゴー大学の倫理学の教授に就任した。1759年に“同感”の概念をベースにした『道徳感情論』を出版し、この書物によってすでに全ヨーロッパで名声を得ていたが、その後、約9年の歳月をかけて執筆、完成されたのが、経済学のバイブルと言われる『国富論』である。

本図書館の所蔵は1776年にロンドンのストラハン＝カデル書店から出版された初版である。

請求記号：A331.4-208





## S. ジョンソン『英語辞典』 1755年

サミュエル・ジョンソン（1709-1784）はイギリスの批評家、作家。最初の英語辞典の編纂者として“ジョンソン博士”と呼ばれ親しまれている。1746年、ジョンソンの詩『ロンドン』を出版したロバート・ドズリーに辞書の編纂を持ちかけられ、その後10年近くの歳月をかけて完成させたのが本書『英語辞典』である。当時のイギリスには、外国語や技術用語などの難解な言葉の説明を集めた辞典はあったが、その正確な意味や使い方を解説している辞典は作られていなかった。そこで自国語使用法の規範を示すものとして『英語辞典』編集が計画された。ジョンソンは42,000以上の項目を持つ辞典を、6人の写学生を雇い独力で完成させた。中にはジョンソンの個性を思わせる辛辣な説明もある。

請求記号 A833-98

## J. サヴァリ『完全な商人』 1752年

著者ジャック・サヴァリ（1622-1690）はフランスで初めて法典化された商法とされる「1673年商事王令」の起草者である。元々裕福な小間物商であったサヴァリは、財務総監コルベールに商法典の編纂に招かれこの商業条例を作成した。この王令は通称〈サヴァリ法典〉と呼ばれている。

本書『完全な商人』は、1675年に初版を出版、大変な評判を得て100年以上にわたって多くの版を重ね、ヨーロッパでは商業学の教科書として読まれた。その内容は「1673年商事王令」の解説に加えて自らの経験に基づく商業活動に必要なあらゆる知識が記述されている。写真は1752年の『完全な商人』新版の口絵である。

請求記号：A352.35-5.B.2





## ルカ・パチョーリ註釈『ユークリッド原論』 1509年

『原論』は、紀元前三世紀頃ユークリッドによってギリシア語で著された最も有名な数学の古典で12世紀にはラテン語に訳され、中世ヨーロッパの大学では一部分でも必ず『原論』を学んでいた程大きな影響を持っていた著作である。本書は1260年頃イタリアの数学者カンパヌスがラテン語に訳した『原論』に大著『スンマ』によって複式簿記を広めたことで知られるルネサンス期の高名な数学者ルカ・パチョーリが注釈を加えたものである。タイトルの部分にある「メガラのエウクレイデス・・・(Euclidis Megarensis philosophi・・・)」は、中世においてユークリッドと混同されていたソクラテスの弟子、メガラ学派の哲学者ユークリッドの名が記述されているものである。

請求記号：A414.01-8

## G. メルクリアーレ『体育論』 1601年

著者ジローラモ・メルクリアーレ(1530-1606)はイタリア、フォルリで生まれパドヴァ大学で医学を学び同大学の医学部教授になり、ボローニャ、ピサ大学でも教鞭をとった人物である。本書『体育論』は、1569年に出版された健康と医学に関する著作で、最初のスポーツ医学の本と言われている。規則正しく運動することの必要性、座りきりの生活をしている人には運動が必須であることなど、現在当たり前のように言われていることが、すでに説かれている。

本図書館の所蔵は『体育論』第4版と、皮膚病に関する最初の体系的な研究(1572年)、子供の病気に関する初期の研究(1583年)が合冊された1601年刊行の版である。

請求記号：780.1-85.D



展示ではさらに多くの貴重資料を紹介する予定でしたが、誌面の関係上6点を紹介いたしました。現図書館での最後の展示が開催できなかったことは残念ですが、あらためて実際の書物をお見せできる機会ができればよいと思います。

(資料サービス課 荏原 直子)

## 四十二行聖書（ファクシミリ版）

*Johannes Gutenbergs zweiundvierzigzeilige Bibel (Faksimile-Ausgabe)*

BerlinMünchen : Idion , 1977-1979



本紙図書館だよりの「図書館の所蔵資料紹介」は、途中で幾度かの中断はありながらも 1977 年 11 月（通巻第 13 号）から続けられてきた。最初は参考図書や新聞の紹介という半ページ程度の記事だったが、連載第 7 回目に「本館所蔵図書の紹介」というタイトルになった。以降、主に貴重資料など一冊の本を紹介する記事として現在まで 40 年以上連載が続いている。記念すべき連載第 7 回「本館所蔵図書の紹介」で取り上げられたのは、『四十二行聖書』（ファクシミリ版）である。活版印刷が発明されて最初に印刷されたこの本は図書館での展示、見学、レクチャーなどで何度も使用してきた本であり、図書館員にとっての原点ともいえる書物である。今回は、この活版印刷術発明者であるヨハネス・グーテンベルク（c1398-1468）にまつわるエピソードを紹介したい。

1455 年頃、ドイツのマインツでグーテンベルクによって発明された活版印刷術の発明は、人類史上最も偉大な発明の一つであるとされている。最初に印刷された書物『聖書』は、その一ページに印刷された行数にちなんで『四十二行聖書』あるいは『グーテンベルク聖書』とも呼ばれる。偉大な業績を残したグーテンベルクだが、その生涯については分かっていないことも多く、自分が印刷した書物に一切その名前を残していなかったため、長い間その発明者や発祥国の確定については激しい論争が続き、他の人物の可能性を退けてグーテンベルクが印刷術の発明者であるとされたのは、意外なことに 20 世紀になってからのことであった。

その生涯については、貴族の家系出身で金細工師・鏡職人で、裕福ではないが貧しくもなかったこと、青年期には市民と貴族の抗争が頻繁に起こり故郷のマインツを離れなくてはならなかったこと、自分が取り組んでいる印刷術の発明については極端な秘密主義で、当時は周囲の者に妖術だと思われていたことなどが伝えられている。有名なエピソードに、印刷術発明に出資した実業家ヨハン・フストに印刷機を取り上げられ、不遇な晩年を送ったというものがあるが、これは後に創作されたイメージのようで、実際は出資したものの回収の見込みがないということでフストが契約不履行にて訴えを起こし、印刷機材を没収して元グーテンベルク工房の職人シェッフアーを雇い、共同で印刷事業を引き継いだということらしい。フスト＝シェッフアーの工房は初めて印刷者名、印刷者マークなどを刷り込んだ『マインツ詩篇』など優れた書物を印刷し、印刷文化の発展に大きく貢献した。

一説によるとグーテンベルクは、自分が歴史を変えるほどの発明をしたとは考えていなかったらしい。その晩年は、新たな出資者のもと自分の印刷所で職人と共に『カトリコン』などの美しい印刷物を作り、年金を受け安息のうちに過ごしたといわれている。

請求記号：A193-79（貴重資料庫）

（資料サービス課 荏原 直子）

# 図書館からのお知らせ

## 新年度からのお知らせ

### 横浜図書館

2021年2月から2022年3月まで図書館（15号館）の改修工事をおこないます。

仮設図書館は、3号館1階の展示ホールを予定しています。約2万点の資料を配架する予定ですが、15号館書庫の資料も利用できますので、仮設図書館カウンターに書庫出納をお申込み下さい。

### みなとみらい図書館

2021年4月より開館します。みなとみらい図書館はキャンパスの2F、3Fにあり、各フロアのラーニングcommonsにも資料を配架します。

### 平塚図書館

2021年4月に経営学部がみなとみらいキャンパスに移転するため、経営学部門の図書を中心にみなとみらい図書館に移設します。

### 共通

図書館を利用する際は学生証が必要です。

3キャンパスの図書は、取り寄せができますので、OPACで図書の所蔵館を確認して予約ボタンからお申込み下さい。不明な場合は、各カウンターにお問い合わせ下さい。

## 編集後記

大学休業中の図書館ほど心地の良いものはないと思っていた。いつもは静かに勉強している人やスマホを見ながらくつろいでいる人、時には、おしゃべりをしている人もいる閲覧室が、授業期間や試験が終わって大学が休みに入るとって変わって静かになる。利用者がまばらになり、人けのない図書館にいと、さあ、ここにある本はすべてあなたのためだけにありますよ、と言われたような錯覚を起こして嬉しくなったものだ。新学期が始まるまでのつかの間の幸福。でも今年、春休みが終わって新学期になっても利用者に戻ってきてもうことはできなかった。人けのない図書館が、こんなに寂しいものだとは思わなかった。

新しい生活、新しい世界。欲しいものも食べるものも家から出なくても手に入る。画面に映った顔を眺めれば会ったことになる。本も電子で読めるから図書館に来なくても情報は揃う。でも、何か欠けている。かつて、人けのない図書館に佇み味わった幸福感は、ここが自分にとっての大切な居場所であることを教えてくれた。おそらく他にも、ここが自分の居場所だと思っていた人はいたはずだ。

郵送で貸出をしたり、自宅で利用できる電子資料を増やしたりと新しい仕事に取り組むかわら、いつものように本を整理し、書架に並べ、閲覧室の環境を整え、ここで働く者は皆、利用者が戻ってくるのを待っていた。そして最近ようやく少しずつ来てもらうことができるようになった。

間もなくこの図書館ともしばらくお別れだ。新しい図書館で、また自分の居場所を見つけてほしい。これからも我々は、図書館にたくさんの人が来てくれるのを待っている。

(N.E.)

## 今号の表紙

### 神奈川大学図書館 正面玄関

現在の図書館ができた時代（1980年）は、今ほど冷暖房設備が整っていなかったため、図書館は大学内では数少ない、クーラーのある施設だった。暑い夏、図書館の正面玄関を入ると冷気が心地よく、生き返った気分になった気がした。開館当時、玄関の庇上部にある“15”の号館表示はまだなかった。

